

点訳者の活動の場を拡げる研修会

特定非営利活動法人 日本点字技能師協会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田二丁目18番2号日本盲人福祉センター内

助成事業の概要

- ・7月29日（土）・30日（日）名古屋にて
 - ★スキルアップ講習会（以下「スキルアップ」）：「インクルーシブ教育児童・生徒への支援について」「中途視覚障害者への点字触読指導」「点字サインの最新動向」
 - ★点字技能チャレンジ講習会（以下「チャレンジ」）：実技試験の模擬試験および4講義を実施。講義1は実技試験の解説、講義2「国語の文法的理解と読解力」と講義3「障害者福祉・教育」は主に学科試験への対応、講義4は模擬の解答・解説。
- ・11月（名古屋にて）、理事長・副理事長・事務局長の3名で両講習会の内容・成果などを検証。
- ・9月・10月・11月 機関誌で報告
視覚障害者が、日々の生活、学校、職場など、あらゆる場面で必要な点字での情報を得られることが、私どもの願いです。スキルアップは種々な内容の点訳技法を高めるためのもの。チャレンジは、点字技能師取得を目指す方を対象とするものです。チャレンジは、当協会主催のこの講習会のみで他にはありません。点字の専門家の証となる点字技能師の有資格者を増やすことは、社会の中での点字の存在を確かなものにするために重要なことであり、継続して実施すべきと考えています。

事業の成果

- ・参加者は新潟から沖縄まで、チャレンジは33名、スキルアップは27名と、いずれも期待していた25名を超えました。
- ・点字技能検定試験を主催する（社福）日本盲人社会福祉施設協議会より後援を得ました。
- ・スキルアップについては、教育現場での点字事情、生活の中での点字サイン、中途視覚障害者に対する触読指導と、多様なニーズに沿った内容の研修を予定通り実施できました。
- ・参加者からの「点字技能師として正しい点字を知っているだけでなく、誰もがその人らしく生き、暮らしやすい社会を目指すために、今回のようなお話しが聞けて良かった」という感想に象徴されるように、視覚障害者への理解を深め心のバリアフリー社会の実現を目指すことに貢献できたと思います。
- ・今後のスキルアップのテーマとして多彩な要望が寄せられ、参加者の問題意識の高さと熱意にスタッフ自身がつき動かされ、活力をいただきました。
- ・チャレンジについては、全国各地から参加を得たことで、どの地域にも点字の専門家が育つことが期待できます。「模擬試験を受けられたことが良かった」という感想が多く、模擬試験の意義をあらためて認識しました。「学科試験の模擬も実施してほしい」「自己採点ではなく採点してほしい」という要望もありました。2日間という研修会の時間を考えると難しい課題ですが今後検討していきます。

・スキルアップ・チャレンジのどちらについても、晴眼の参加者から「大勢の視覚障害の方と接するのは初めての経験」「一緒に講習を受けているんなことを学びました」などの感想をいただきました。視覚障害者と接し、ともに学ぶ体験を通して自然な形で障害者理解に寄与できたと思われまます。

・機関誌で報告し、研修会に参加できなかった会員に知識と情報の共有を図りました（下記5参照）

成果の広報・公表

当協会のホームページに本講習会について、日程・講座名・講師・参加者数などを紹介しています。HP：<https://www.e-nakama.jp/ginoushi/>

会員に対しては機関誌『日点協通信』9月号・10月号・11月号に両講習会の内容を報告し、研修会に参加できない会員にも知識・情報を共有できるようにしました。

各号の表紙には、貴社の助成をいただいて講習会を実施したことを記しました。

機関誌への報告にあたって、「インクルーシブ教育」は会員の全盲の菊池氏が担当、「早く盲学校へ転校した方があなたのためですよ」と言われながらも地域の小学校で学んだ経験を重ねあわせてのもの。「中途視覚障害者への点字触読指導」は当協会理事でもあり全盲の兵藤氏が担当、点字使用者としての具体的な指導法の報告となるなど、視覚障害者が担当することで、報告者自身の経験も加わったものとなりました。

今後の展開

スキルアップ、チャレンジの両講習会とも継続していきます。

スキルアップの参加者からは、「数学・情報処

理点訳」「楽譜点訳」「図表・記号・レイアウトなど、触ってわかりやすい書き方の工夫」など点字表記そのものに関することや、「点字教科書の現場での活用例」「子どもたちに点字の面白さにより深く気づいてもらうための工夫」「地域ごとの点字普及の実情について比較検討できる会」など、点字の普及を図るためのもの、自らの活動の方向性を確認するためのものなど、多彩な要望が寄せられました。このように多方面に渡って学んでいけないといけないという自覚を持つ点訳者が数多くおられるので、それに応えていく必要があります。

実際には、その時々にも最も必要と思われるテーマの中から、講師依頼が可能なものを選定し、予算の範囲で、できる限り多くの地域での開催を勘案し、実施します。

チャレンジは、全国各地の点字技能師を増やすためにも、点訳者の技能の底上げを図るためにも継続します。毎年実施される点字技能検定試験で、チャレンジ受講者の合格者が増えるように内容も充実させていきます。